令和元年度 実践記録集

学校名 新居浜市立泉川中学校

●主な活動内容について

【 2年「 小中合同防災遠足(地域とともに動く) 】 (ねらい)

・ 小学生や地域の方との交流を通して、災害時や 非常時に中学生としてできることを体験したり、 考えたりする。

16 TOTALE



(活動の実際)

・ 小学校2年生をエスコートしながら校区内を通って目的地に向かい、昼食は地域の方による炊き出しをいっしょに食べた。また、帰りは自宅まで責任をもって送り届けた。

【3年「『あいロード』美化活動」(地域に対してできることを考え、動く)】

(ねらい)

泉川校区のシンボルとも言える、校区の中心 を通る国道バイパス(通称『あいロード』)の美 化活動及び管理を校区住民とともに行っていく。



(活動の実際)

・ 総合的な学習の時間で『あいロード』美化活 動を実施した。『あいロード』に植える花の苗は、地域住民とともに公民館で苗植 えをし、花が咲くまで育てたものを使用している。そして、年間を通して、地域 の力を借りながらも自分たちの手で管理していった。

● 主な活動内容について

【 **4年「そうびらき ぶらりウォーク」** 】 (ねらい)







惣開校区の歴史や産業遺跡、住友企業グループと惣開との関わりなどについて調べる中で、新居浜の発展の歴史や誇る文化・史跡について理解し、地域を愛し、誇りに思う心情と、地域文化のすばらしさを実感し、伝承し守っていこうとする態度を育てる。

(活動の実際)

4年生児童が社会科の学習を通して、別子銅山の歴史や惣開との関わりなどにつ

いて調べ学習に取り組んだ。この活動を通して学んだことを、惣開校区にある歴史的・文化的な史跡を巡り、ガイド役となり保護者や地域の方々に紹介した。自分たちのふるさとの魅力を発見し、地域を愛する心情も深めることができた。



【 1年「いきものとなかよし」】

【 5年「王子ヶ丘から発信!渡り蝶アサギマダラを呼ぼう」 】 (ねらい)







学校に隣接する王子ヶ丘の身近な自然に触れる中で、動植物に親しみ、動植物の 命を大切にしようとする心情を育てる。また、フジバカマを育て渡り蝶であるアサ ギマダラを呼ぶ活動に取り組み、環境を守り生命を慈しむ心情や実践力を育てる。 (活動の実際)

1年生は、校舎内や王子ヶ丘の草むらで生き物を見つけ、触れ合う活動を通して、生き物の命の大切さを学ぶことができた。捕まえた生き物を見る1年生のまなざしはとても輝いていた。

惣開小学校の児童は、中庭にあるフジバカマガーデン に飛来するアサギマダラを毎年楽しみにしている。特に



5年生は、愛媛県総合科学博物館から学芸員を招いてマーキングの仕方を学習する活動もあるため、他の学年以上にアサギマダラに対する関心が高い。南西諸島から飛来するアサギマダラの特性等を知ることで、広い視野での環境教育を推進することに結びついている。

主な活動内容について

【 1年 「大しまたんけんにいこう」 】 (活動の実際)





・ 地域の方が利用する渡海船に乗って大島交流センターに 行き、大島のいいところや歴史について話を聞いた。



(大島たんけんの様子)

【 2年 「町たんけんをしよう」 】 (活動の実際)





町たんけんとして多喜浜漁港へ赴き、漁港の見学や漁師の 方へのインタビューを行った。インタビューの内容を事前の 授業で話し合うことで、本活動への意欲を高めた。

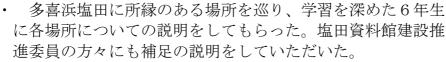


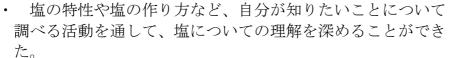






(町たんけんの様子)







(塩田ウォークの様子)

【 4年 「多喜浜の昔 知りたいな」】 (活動の実際)











へ伝えようとする取組について調べ、理解を深めた。 地域の方と一緒に塩づくり体験を行った。

・ 今も多喜浜に残る精神文化「かしょい」(相互扶助・助け 合い) について、地域の方に詳しく教えていただいた。

社会科の学習と関連付けながら、多喜浜塩田の歴史や未来

(塩田学習の様子)

【 6年 「地域の誇り多喜浜塩田再発見 」 】 (活動の実際)





- これから多喜浜塩田について学習を深めていく3年生と 史跡巡りを行い、案内役を務めた。事前活動として、地域 の方と担当の史跡に出向いて詳しく話を聞き、3年生に伝 わるように発表資料等をまとめた。地域の方々の思いも含 め、しっかりと多喜浜塩田の歴史を伝えることができた。
- 今年度より海洋教育をスタートさせた。9月に「海っこ 開き」と題して、総合科学博物館より講師を招き、世界の 海について講演をしていただくとともに、校区内にある 「黒島海浜公園」にて、磯遊び活動を行った。どちらの活 動も子どもたちにとって有意義な活動となった。



(塩田遺産ガイドの様子)



(海っこ開きの様子)

令和元年度海洋教育パイオニアスクールプログラム研修会

講師 海の自然史研究所 代表理事 今宮則子

- 海は●●だ。 ⇒命の源、食の宝庫
- 日本の国土・領海 ⇒世界第6位
- 99%は海洋輸送に頼っている。
- 海は大きな循環を生み出している。気候の安定に貢献。
 - ▲ 海面から 3,000mの深層まで、平均 0,037℃の水温上昇が起きている。
 - ▲ ⇒地球温暖化の 80%を海が吸収している。その結果が 0, 037 $^{\circ}$ $^{\circ}$
- **★海洋基本法**····2007 年 4 月 20 日成立、7 月 20 日施行

海の役割増大 ⇒ 特に、②「海洋に関する国民の理解の増進」

(第28条) 学校教育推進

(第16条) 海洋基本計画の策定 ⇒5年ごとの見直し

海洋人材の育成と国民理解の増進 ⇒専門家、子どもや若者への教育

(゚-゚) 2025 年までに全市町村で海洋教育を実践! ⇒学習指導要領へ!

SDGs (持続可能な開発目標) \Rightarrow 4 海の豊かさを守ろう \Rightarrow 10 のターゲット \Rightarrow 指標が示される 世界共通の目標である SDGs の 14 番目に海の豊かさを守ることが明記された。

★海洋教育とは何を学ぶものか

Ocean Literacy (海洋リテラシー) ⇒知識と活用力 「NOAA 米国海洋大気局パンフ」

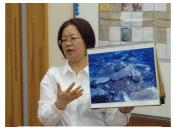
- ⇒ 私たちが海洋に与える影響、海洋が私たちに与える影響 7つの重要原理と45の基本理念⇒ 幼稚園から高校まで系統的に教える。
- ◎ いわゆるカリキュラムマネジメントか?
- ◎ 国連は 2021~2030 年までの 10 年間を「持続可能な開発のための海洋科学の 10 年」と定めた。SDG s との連携。2017 年には Ocean Literacy for All を発刊。
- ◎ 海洋政策研究財団 ⇒海洋教育の定義
- ◎ 海洋教育のグランドデザイン ⇒小学校の海洋教育の概念図掲載

★海洋教育の学び方

- ○専門家の話 ○調べ学習 ○実際に海に行く ●海のないところで海を学ぶ
- ⇒知識の関連化を図る。海のないところでも学べる工夫。
 - ◎ワークショップ ⇒「珊瑚のテリトリーウォーズ」
 - ◎群体で生きる。クローン繁殖。1年間に5cm成長。褐虫藻との共生で90% energy
 - ◎25 年間の珊瑚の状況。海水温 30℃、30 日間で壊滅的打撃。オニヒトデ、貝、台風
- √ 4種類の珊瑚の特徴と危険因子の関係をカードに反映したゲーム。



(研修会の様子)



(今宮先生の講演)



(ワークショップ)